

学習評価の意義等・評価の三つの観点

学習評価は、学習指導要領の示す目標に向けて子どもたちに「**どういった力が身に付いたか**」という学習の成果を的確に捉えるためのものです。子ども一人ひとりに学習指導要領の内容が確実に定着するよう、学習評価を学習・指導方法の改善につなげていく必要があります。

学習評価の意義等

- 個々の授業のねらいをどこまで、どのように達成しているかを捉える
- 前の学びからどのように成長しているかを捉える
- より深い学びに向かっているかどうかを捉える

□ 児童生徒の学びの評価にとどまらず、「カリキュラム・マネジメント」の中で、教育課程や学習・指導の改善に向けた学校教育全体のサイクルに位置付けていくことが必要

学校・教員

指導改善の手がかり

児童・生徒

学習を見直し、次の学習に向かう契機

学習評価

児童生徒の学習状況を検証し、その実現状況を見る取組み

保護者

子どもの学習状況の把握
家庭学習を促す契機



評価の三つの観点

各教科における評価は、学習状況を分析的に捉える「**観点別学習の評価**」と総括的に捉える「**評定**」とを学習指導要領に定める「**目標に準拠した評価**」として行います。

次期学習指導要領における学習評価の観点

現行

知識・理解

技能

思考・判断・表現

関心・意欲・態度

改訂

基礎的・基本的な知識・技能

課題を解決するために必要な
思考力・判断力・表現力等

主体的に学習に取り組む態度

全教科等において教科目標や内容を、資質・能力の三つの柱に基づき再整理

- 単元や題材を通じたまとまりの中で学習・指導内容と評価の場面を適切に組立てていくことが重要
- 観点別学習評価に十分示しきれない個人内評価（子ども一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況等）については日々の教育活動や総合所見等を通じて積極的に伝えることが重要

「学びに向かう力・人間性」には、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取部分があることに留意する必要があります。

